

# 昭和60年度重要貝類毒化対策事業

## (1) 毒化モニタリング調査

### (要 約)

高林 信雄・蛭名 政仁・今井美代子・林 義孝・浜田 勝雄  
横浜 昌夫・鈴木 常雄・本間 直吉・長津 司 (以上、青森  
県水産増殖センター)・小林 英一・平出 博昭・野村 真美  
古川 章子・村上 淳子 (以上、青森県衛生研究所)

この調査は、青森県外海沿岸域（日本海・津軽海峡・太平洋）における貝毒と、その原因プランクトンのモニタリングを行うことにより、計画的な貝類の出荷・加工等を行い、漁業経営の安定に資することを目的として実施した。なお、詳細については「昭和60年度重要貝類毒化対策事業報告書（毒化モニタリング）」（昭和61年3月）として報告した。

### 1 調査地点

図1に示した青森県沿岸の各地点

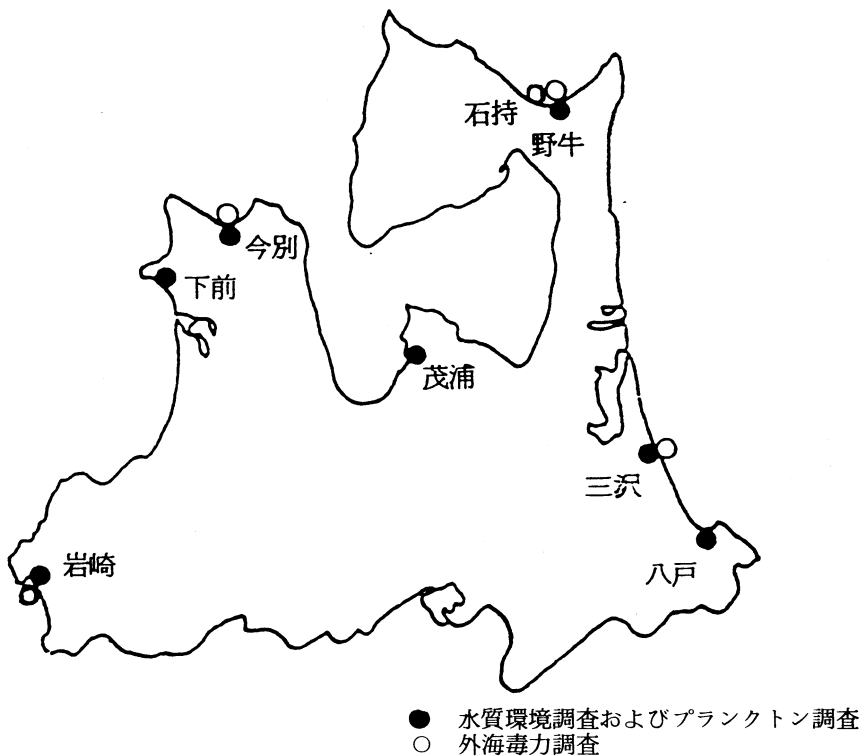


図1 毒化モニタリング調査地点図

## 2 調査時期

表1に調査地点別の調査時期および回数を示した。

表1 毒化モニタリング調査時期および回数

調査名	調査地点	S60. 4	5	6	7	8	9	10	11	12	S61. 1	2	3	計
外海毒 力調査	岩崎												5	5
	今別	1	1	1	1									4
	石持	1	2	3										6
	野牛	4	4											8
	三沢					1	1							2
	小計													25
水質環 境調査 および プラン クトン 調査	岩崎	5	3	4	4	3	2							21
	下前	5	4	4	5	4	4	5	4	5	4	2		46
	今別	5	4	4	5	3								21
	野牛		1	4	5	4	1							15
	三沢	3	4	3	4	5	5	4	3	4	3			38
	八戸	3	4	3	5	4	4	5	1					29
茂浦	5	4	4	5	4	5	4	4	3	3	4	3	48	
	小計													218

## 3 調査対象貝

ホタテガイ *Patinopecten yessoensis* (JAY)

## 4 調査項目

水温、採水プランクトン、貝毒

## 5 結果

- 日本海の調査において、*D. fortii* が最初に出現したのは、3月25日の20cells/ℓで、その時の水温は7.5℃であった。また、最高出現数は、5月20日の458cells/ℓで、その時の水温は15.0℃であった。最後に出現したのは、6月3日の10cells/ℓで、その時の水温は15.6℃であった。
- 津軽海峡の調査において、*D. fortii* が最初に出現したのは、6月3日の10cells/ℓで、その時の水温は15.0℃であった。その他の時期には全くみられなかった。
- 太平洋の調査において、*D. fortii* が最初に出現したのは、5月27日の190cells/ℓで、その時の水温は12.9℃であった。最高出現数は、6月3日の900cells/ℓで、その時の水温は13.4℃であった。最後に出現したのは、6月25日の60cells/ℓで、その時の水温は15.3℃であった。
- 陸奥湾の茂浦地先の調査において、*D. fortii* が出現したのは、5月13日の20cells/ℓだけで、その時の水温は12.9℃であった。

- *D. fortii* の出現は、日本海・陸奥湾・太平洋・津軽海峡の順に、消滅は、陸奥湾・日本海・津軽海峡・太平洋の順に認められた。
- 今別地先と三沢地先では、*D. fortii* が全く出現しなかった。
- *D. acuminata* は、ほとんど出現せず、最高でも3月25日の岩崎で、20cells/ℓの出現があっただけであった。
- *Protogonyaulax* 属は、全調査期間を通じて全く出現しなかった。
- *D. fortii* の出現は、水温8～15℃でみられ、特に水温13℃で高密度であった。
- 下痢性貝毒は、津軽海峡で5月23日から6月3日にかけて毒が認められたが、日本海と太平洋では全く検出されなかった。
- まひ性貝毒は、日本海と津軽海峡では全く検出されなかった。太平洋では、規制値以下ではあったが、3月7日から9月3日にかけて弱い毒が認められた。
- 昭和60年は昨年と比べ、*D. fortii* の出現期間が短く、出現数も少なかった。そのため、下痢性貝毒も同様、毒化期間が短く、毒力も低レベルに推移した。また、昨年出現していた *P. tamarensis* が全く出現しなかった。そのため、まひ性貝毒の毒力も昨年と比べかなり低い値で推移した。